

表3.3.2.1 電灯・動力設備

点検項目	点検内容	周期	備考
1.照明器具	共用部分の点灯状態の確認を行う。	1M	
2.分電盤・照明制御盤等	① 異常音の有無を確認する。 ② 各開閉器等の開閉状態を点検する。	1M 1M	
3.制御盤	① 異常音、発熱、異臭、変色等の有無を点検する。 ② コンデンサの液漏れ、ふくらみ等の有無を点検する。	1M 1M	

表3.3.3.1 受変電設備

点検項目	点検内容	周期	備考
1.盤類 【配電盤、パイプフレーム、さく等】	① 扉の開閉の良否及び施錠の有無を点検する。 ② 汚損、損傷、変形、き裂、塗装の剥離及びさびの有無を点検する。 ③ ボルトの緩みの有無を点検する。 ④ 雨水浸入、ほこり等の堆積状態を点検する。 ⑤ 標識の汚損及び取付け状態を点検する。	1M 1M 1M 1M 1M	
2.特別高圧機器	温度の適否を温度計の指示値により確認し、異常な高温となっている場合は、負荷電流の状態を確認する。	1D	
3.高圧機器 a.変圧器 【乾式変圧器、モールド変圧器、油入変圧器】	異常音、異臭、異常振動等の有無を点検する。	1D	
b.交流遮断器・負荷開閉器・電磁接触器	異常音、異臭、漏油等の有無を点検する。	1D	
c.計器用変成器	① 汚れ、損傷、き裂、過熱、変色、漏油等の有無を点検する。 ② 接続部の変色の有無を点検する。 ③ 接地線の外れ、断線等の有無を点検する。	1D 1D 1D	
d.指示計器 ・表示操作類	① 各計器の表示値の適否を点検する。 ② 配電盤等の信号灯、表示灯類をランプチェックで確認する。	1D 1D	
e.高圧進相コンデンサ	異常音、異臭、変形、ふくらみ等の有無を点検する。	1D	
4.低圧機器 a.開閉器類 【配線用遮断器、漏電遮断器、電磁接触器】	① 異常音、異臭、損傷、過熱、変色等の有無を点検する。 ② 開閉表示状態(指示、点灯)を確認する。	1D 1D	
b.指示計器・表示操作類	① 各計器の表示値の適否を点検する。 ② 配電盤等の信号灯、表示灯類をランプチェックで確認する。	1D 1D	

表3.3.4.1 自家発電設備

点検項目	点検内容	周期	備考
1.自家発電装置	① 燃料油及び潤滑油の漏れの有無を点検する。	1D	
2.配電盤	① 配電盤等の信号灯、表示灯類の点灯状態をランプチェック等により点検する。 ② 自家発電装置が始動及び自動運転待機状態(切替スイッチの自動側位置等)にあることを確認する。	1D 1D	・装置搭載盤を含む。 ・装置搭載盤を含む。
3.補機付属装置 a.始動用蓄電池装置 イ.整流装置	① 表示灯類の点灯状態を点検する。 ② 操作、切替スイッチ等の状態を点検する。	1D 1D	
ロ.始動用蓄電池	① 蓄電池の損傷、液漏れ、汚損等の有無を点検する。 ② 蓄電池の電解液面を点検し、最高・最低液面線内にあることを確認する。 ③ 蓄電池の総出力電圧を確認する。	1D 1D 1D	

b.燃料タンク・燃料移送ポンプ等	① タンク、ポンプ及び配管の油漏れ並びに変形、損傷等の有無を点検する。	1D	
	② 油量を点検する。	1D	
c.換気装置	① 自然換気口の開口部の状況又は機械換気装置の運転が適正であることを手動運転により確認する。	1M	
	② 給・排気ファンが、自家発電装置の運転と連動して運転できることを確認する。	1M	
d.排気管・消音器	① 排気管等の過熱部周囲に可燃物が置かれていないことを確認する。	1M	
	② 排気管等の支持金具の緩みの有無を点検する。	1M	
e.バルブ	各種バルブの開閉状態を点検する。	1D	
4.試運転	① 試験スイッチを投入して、試運転を行い、始動時間を確認する。	1M	
	② 運転中、電圧計、周波数計等の計器の指示値が適正であることを確認する。	1M	
	③ 回転数、温度、圧力等を付属の各計器により始動前及び運転時の指示値を確認する。	1M	
	④ 試運転終了後、スイッチ、ハンドル、バルブ等を自動始動側に切替えて、運転待機状態にあることを確認する。	1M	

表3.3.5.1 直流電源設備

点検項目	点検内容	周期	備考
1.整流装置	① 表示灯類の点灯状態を点検する。	1D	
	② 操作、切替スイッチ等の状態を点検する。	1D	
2.蓄電池	① 蓄電池の損傷、液漏れ、汚損等の有無を点検する。	1D	
	② 蓄電池の電解液面を点検し、最高・最低液面線内にあることを確認する。	1D	
	③ 蓄電池の総出力電圧を確認する。	1D	

表3.3.9.1 外灯

点検項目	点検内容	周期	備考
外 灯	① 点灯状態を点検する。	1D	
	② 灯具、ボール等の損傷、破損、さび、腐食等の有無を点検する。	1M	

表3.3.10.1 雷保護設備

点検項目	点検内容	周期	備考
雷保護設備	① 突針支持管の取付け状態を点検する。	1M	
	② 突針等の支持管の固定状態を点検する。	1M	
	③ 棟上げ導体の取付け状態、損傷等の有無を点検する。	1M	

表3.3.11.1 構内配電線路・構内通信線路

点検項目	点検内容	周期	備考
構内配電線路・構内通信線路	① 架空線、引込線及びちょう架線と植物との離隔距離並びにたるみ、損傷等の有無を点検する。	1D	
	② 電柱、支持物等の損傷、傾斜、腐朽、脱落等の有無を点検する。	1D	
	③ 引き込みケーブル及び端末部の損傷、汚損、コンパウンド漏れ等の有無を点検する。	1D	
	④ マンホール及びハンドホールの蓋の損傷の有無を点検する。	1M	

表3.4.1.2 運転・監視記録

機器の種別	項 目	周期
鑄鉄製ボイラー ・鋼製ボイラー	・ボイラー蒸気圧力又は温水温度 ・ボイラー及び給水タンク水位 ・給水温度、圧力及び流量 ・循環ポンプ吐出及び吸込圧力 ・燃料温度、圧力及び流量、 ・燃焼空気温度及び風圧 ・排ガス温度	2H

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炉内及び煙道ドラフト</li> <li>・排ガス濃度分析及びばい煙濃度</li> <li>・天候</li> <li>・ボイラー室温度</li> </ul>	
--	---	--

表3.4.1.3 鋼製ボイラー

点検項目	点検内容	備考
1.起動前		
a.圧力計・水高計・温度計	① 指針に異常のないことを確認する。 ② ガラス及び文字板に汚れ及び損傷のないことを確認する。	
b.水面計・連絡配管・水位検出器用連絡配管	① コック又は弁の開閉状態が正常であることを確認する。 ② 水面計、低水位遮断装置及び水面制御装置の機能に異常のないことを確認する。	
c.ボイラー水位	水面計の水位が安全低水位以上の位置にあることを確認する。	
d.燃料及び給水系統	① 弁の開閉状態が正常であることを確認する。 ② 燃料又は水漏れがないことを確認する。	
e.バーナー	① 燃料噴射ノズルから燃料漏れがないことを確認する。 ② 炎口部にすす、未燃物等による汚れがないことを確認する。 ③ バーナーの装着状態が正常であることを確認する。	
f.ボイラー燃焼室	耐火材の脱落、カーボンの付着等がないことを確認する。	
g.煙道ダンパー	ダンパーの開き具合及びその固定状態に異常のないことを確認する。	
h.ボイラー室の換気	換気状態が良好に維持されていることを確認する。	
i.吹出し作業 【鋼製ボイラーに限る】	① ボイラー水の濃縮状態に応じて吹出しを行う。 ② 吹出し作業終了後、吹出し弁の閉止状態に異常がなく、弁及び配管から漏れがないことを確認する。	
j.給水軟化装置 【鋼製ボイラーに限る】	① 装置出口の水に硬度リークがないことを確認する。 ② 再生用食塩の保有量が適切であることを確認する。	
k.燃料	① 油だきボイラーは、燃料タンクの保有量が適切であることを確認する。 ② ガスだきボイラーは、一次側ガス圧力が正常であることを確認する。 ③ パイロットバーナーを付属するボイラーは、点火用燃料源の状態に異常のないことを確認する。	
l.給水タンク	① 水位が常用水位以上にあることを確認する。 ② 入口及び出口弁が確実に開いていることを確認する。	
m.薬液タンク 【鋼製ボイラーに限る】	清缶剤等の薬液タンク内の保有量が適切であることを確認する。	
2.起蒸時		
a.プレバージ動作	① 動作時間に異常のないことを確認する。 ② 比例制御又はHi-Low-Off制御方式のボイラーにあっては、プレバージ中に空気ダンパーが十分な開度まで開いていることを確認する。	
b.バーナー	① 点火スパーク及びパイロットバーナーの火炎の色及び大きさに異常のないことを確認する。 ② 主バーナーの点火時に、バックファイヤー、著しい黒煙の発生、異常な燃焼音、振動等がなくスムーズに点火することを確認する。	
c.燃焼安全装置	① 主バーナーの燃焼中に火炎検出器の受光面を遮蔽した場合に、直ちに安全遮断弁が閉止し、バーナーが消火することを確認する。 ② バーナー消炎後制御盤の警報が鳴り、断火表示灯が点灯することを確認する。	
d.低水位遮断装置	バーナーの燃焼中に水位検出器下部の吹出し弁又はコックを開き、検出器内の水位を一時低下させ、弁又はコックを閉止した場合に、安全遮断弁が閉止し、バーナーが消炎すること及び同時に制御盤の警報が鳴り、低水位表示灯が点灯することを確認する。	
e.水面計 【鋼製ボイラーに限る】	① 水面計の水側、蒸気側及び吹出し側コックの開・閉操作をした場合に、水及び蒸気側の流通状態に異常がないことを確認する。 ② 2本の水面計の指示水位に著しい誤差がないことを確認する。	

f.水面計取付け水柱管・水位検出用連絡配管 【鋼製ボイラーに限る】	① 連絡配管、弁及びコック等から水又は蒸気の漏れがないことを確認する。 ② 水柱管及び水位検出器下部の吹出し弁を開き、内部に付着するスケールその他の異物の清掃を行う。また、清掃終了後は、水側及び蒸気側の弁が開き、吹出し弁が閉止し、漏れがないことを確認する。	
g.吹出し装置	吹出し弁及びその接続配管からの漏れがないことを確認する。	
3.ボイラー運転中		
a.常時監視	ボイラーの圧力(温水ボイラーにあつては温度)、水位及び燃焼状態を常時監視する。	
b.水位制御装置	給水装置及び自動水位制御装置の機能が正常で、ボイラー水位が規定の位置に保持されていることを確認する。	
c.バーナーの自動発停動作	ボイラー圧力又は温度が変化するとき、規定の圧力又は温度でバーナーが自動的に停止又は起動することを確認する。	
d.バーナー燃焼量制御動作 【鋼製ボイラーに限る】	比例制御又はHi-Low-Off燃焼量制御を行うものは、ボイラーの圧力又は温度の変化によりバーナーが規定の燃焼量で制御されることを確認する。	
e.安全弁・逃し弁・逃し管	① 安全弁に漏れがないことを確認する。 ② 取付け部等に漏れがないことを確認する。 ③ 逃し管に漏れ及び凍結のおそれがないことを確認する。	
f.燃焼用空気及び燃焼ガス	① 風道、風箱等から燃焼空気の漏れがないことを確認する。 ② ボイラー外周部及び煙道から燃焼ガスの漏れがないことを確認する。	
g.水質試験 【鋼製ボイラーに限る】	鋼製ボイラーの水質試験は、2編4章7節「水質管理」の当該事項による。	
4.運転終了時の作業	① 主蒸気弁又は温水供給弁を閉止する。 ② ボイラー燃焼室内がある程度冷却するのを待ってバーナーを開いた場合に、ノズルからの燃料漏れがないことを確認する。また、炎口部等の掃除を行う。 ③ 煙道ダンパーを閉止する。 ④ 電源スイッチを遮断する。 ⑤ 吹出し弁及び配管に漏れがないことを確認する。 ⑥ 燃料、給水及び蒸気又は温水の各系統に漏れがないことを確認する。 ⑦ ボイラー周辺部に損傷等がないことを確認する。	・夏季休刊ボイラーのみ

表3.4.2.1 運転・監視記録

機器の種別	項 目	周期
チリングユニット	・冷水入口及び出口温度並びに圧力 ・冷却水入口及び出口温度及び圧力 ・蒸発及び凝縮圧力 ・潤滑油圧力 ・電源電圧及び圧縮機電流 ・機械室温度	2H
吸収冷凍機	・冷水入口及び出口温度 ・冷却水入口及び出口温度 ・高・低圧再生器圧力 ・本体真空度 ・凝縮冷媒温度 ・供給蒸気圧力及び温度 ・再生器、吸収器及び蒸発器液面 ・機械室温度	2H
パッケージ形空調機(電気駆動形)及びガスエンジン式パッケージ形空調機	・冷却水入口及び出口温度並びに圧力 ・蒸発及び凝縮圧力 ・還気並びに給気温度 ・潤滑油圧力 ・電源電圧、圧縮機及び送風機電流 ・機械室温度	1D

表3.4.2.2 冷熱源機器

点検項目	点検内容	備考
1.起動前		
a.圧力計・温度計	ガラス及び文字板に汚れのないことを確認する。	
b.冷水及び冷却水配管系統	① 各種弁の開閉状況を確認する。 ② 配管接続部、機器水室部等より水漏れがないことを確認する。	
c.電源	電圧が規定の許容範囲内にあることを確認する。	
d.燃料	燃料を必要とする機器にあつては、燃料タンクの保有量が適切であることを確認する。	
2.運転中	① 各部の圧力及び温度が規定の許容範囲内にあることを確認する。 ② 配管に漏れ、振動等の異常がないことを確認する。 ③ 運転時に異常音及び異常振動がないことを確認する。 ④ 運転記録から系内に空気の侵入が認められる場合は抽気装置の運転を行う。	
3.運転終了時	① 運転を停止する場合は、関連機器の所定の停止順序に従って行う。 ② 弁類を所定の開閉位置にする。 ③ 電源開閉器を規定の位置にする。	

表3.4.3.2 空気調和等関連機器

点検項目	点検内容	周期	備考
1.オイルタンク	① 漏洩検知管に変形、損傷及び土砂等の堆積物がないことを確認する。 ② 遠隔油量計に損傷がなく指示に異常がないことを確認する。	1M 1M	
2.オイルサービスタンク	① 油の供給及び戻し機能に異常がないことを確認する。 ② 油漏れの有無を点検する。	1M 1M	
3.熱交換器・ヘッダー	① 異常音及び異常振動の有無を点検する。 ② 蒸気トラップからドレンが速やかに排除されていることを確認する。 ③ 温水又は給湯温度、水頭圧及び蒸気圧力に異常がないことを確認する。	1D 1M 1D	
4.冷却塔	① ケーシングに異常振動がないことを確認する。 ② 水槽に水漏れがなく、水位に異常がないことを確認する。 ③ 送風機の各部に異常音又は異常振動がなく、羽根車の回転が円滑であることを確認する。 ④ 凍結防止装置のヒーターの作動電流が定格電流値以下にあることを確認する。 ⑤ 冷却水の汚れの有無を点検する。	1D 1D 1D 1D 1D	
5.ユニット形空気調和機・コンパクト形空気調和機	① 各部の異常音、異常振動等の有無を点検する。 ② 還気、給気及び冷温水入口、出口温度差の異常の有無を点検する。 ③ 加湿器の汚れの有無を点検する。 ④ 排水の良否を点検する。	1D 1D 1M 1M	
6.ファンコイルユニット	① 異常音及び異常振動の有無を点検する。 ② ドレン排水に支障のないことを確認する。 ③ 汚れの状況を確認する。	1M 1M 1M	・フィルターの交換は別に行う。
7.ポンプ	① 各部の異常音、異常振動等の有無を点検する。 ② 軸封部からの水漏れが適当であることを確認する。 ③ 電動機に異常発熱がないことを確認する。 ④ 計器の指示値を確認する。 ⑤ ポンプ周辺の異常の有無を点検する。	1D 1D 1D 1D 1D	
8.送風機	① 各部の異常音、異常振動等の有無を点検する。 ② 計器の指示値を確認する。	1D 1D	
9.全熱交換器	① 各部の異常音、異常振動等の有無を点検する。 ② 計器の指示値を確認する。	1W 1W	

表3.4.4.2 給排水衛生機器

点検項目	点検内容	周期	備考
1.ポンプ			
a.陸上ポンプ	① 各部の異常音、異常振動等の有無を点検する。 ② 計器の指示値を確認する。 ③ 軸封部からの水漏れが適当であることを確認する。 ④ 電動機に異常発熱がないことを確認する。 ⑤ ポンプ周辺の異常の有無を点検する。 ⑥ 逆止弁の機能を確認する。	1D 1D 1D 1D 1D 1M	
b.水中ポンプ	① 揚水機能を確認する。 ② 計器の指示値を確認する。 ③ 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 ④ 逆止弁の機能を確認する	1D 1D 6M 1M	
2.水 槽			
a.飲料用水槽	① マンホール蓋の異常の有無及び施錠状態を確認する。 ② 内部の状況及び水位を確認する。 ③ 周囲の状況及び上部の状況から汚染等を受ける恐れがないことを確認する。 ④ 本体(6面)の状態を点検する。 ⑤ オーバーフロー管の異常の有無を確認する。 ⑥ 通気管の異常の有無を確認する。 ⑦ 水抜き管の異常の有無を確認する。 ⑧ 防虫網の異常の有無を確認する。 ⑨ 警報機能を確認する。	1D 1D 1D 1D 1M 1M 1M 1M 6M	
b.貯湯槽	① 異常音及び異常振動の有無を点検する。 ② 蒸気トラップからドレンが速やかに排除されていることを確認する。 ③ 温水又は給湯温度、水頭圧及び蒸気圧力に異常がないことを確認する。 ④ 貯湯槽に外部電源方式の防食装置を設けている場合にあつては、電源ランプ及び電流計に異常がなく、スイッチを切った場合に電圧計の指針がゼロ点に戻ることを確認する。	1D 1M 1D 1D	
c.雑排水槽・汚水槽	① マンホール蓋の異常の有無及び施錠を確認する。 ② 内部の状況及び水位を確認する。 ③ 病虫害発生の有無を確認する。 ④ 異臭の有無を確認する。	1M 1M 1M 1M	・中水槽を含む。 ・中水槽を含む。 ・中水槽を含む。
3.水質の維持 飲料水・中央式給湯設備による給湯水	① 外観検査(臭気、味、色、濁り)を行う。 ② 残留塩素の測定を行う。	1D 1D	

表3.4.4.3 循環ろ過装置

点検項目	点検内容	周期	備考
1.本体	① ろ過圧力が正常であることを確認する。 ② 逆洗浄が行われていることを確認する。	1D 1D	
2.薬注装置	① 正常に稼動していることを確認する。 ② 薬液が十分であることを確認する。	1D 1D	
3.ろ過ポンプ	正常に稼動していることを確認する。	1D	
4.水温及び水質の管理	① 温水の温度が設定値となっていることを確認する。 ② 浴槽水の汚れ、異物の有無等を確認する。	1D 1D	・夏季、訓練棟プールのみ

表3.5.1.1 中央監視制御装置

点検項目	点検内容	周期	備考
監視制御機器			
a.外観	① 腐食、浸水等の有無を点検する。 ② 異常音、異臭、異常振動等の有無を点検する。	1D 1D	
b.装置・機器等	① ディスプレイ装置・キーボード等の画面の異常、異臭、異常音等の有無を点検し、異常な温度上昇及び作動の確認を行う。 ② プリンタの用紙量・印字確認、オンラインスイッチ等の点検を行う。	1D 1D	